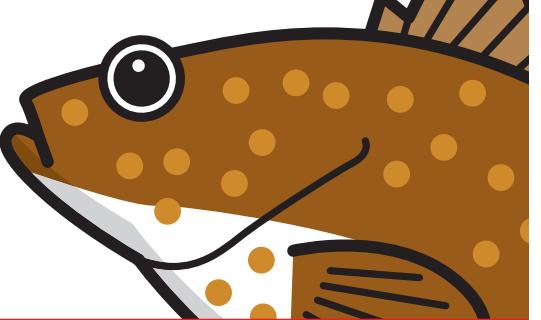


キジハタ

浅い岩場に棲み、大きさは45cmぐらいになる。とても美味しい魚。大きさが35cmぐらいまではメスでそれ以上になるとオスに変わる。



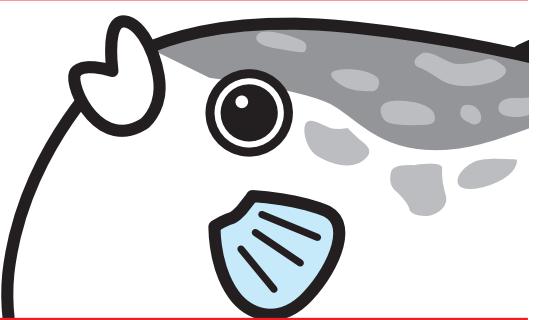
ガザミ

甲羅の大きさが20cmぐらいで別名ワタリガニともいう。夜、餌を求めて出歩き横泳ぎもできる。冬から春にかけてとても美味しい。



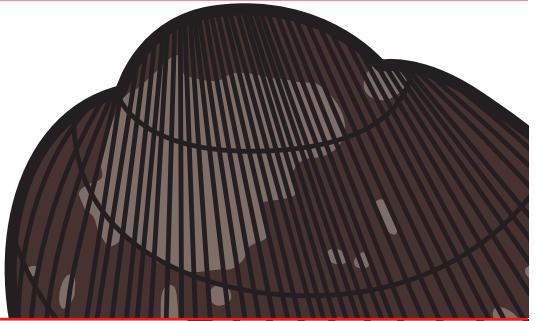
トラフグ

魚介・エビ・カニなど何でも食べ、内臓に毒がある。大きさは70cmぐらいになり、フグの中の王様と呼ばれる。全国で盛んに養殖が行われている。体にあるトゲはうろこが変異したものである。



アカガイ

身が赤いため赤貝ともいう。大きいもので約12cm。表面は短い毛で覆われており、泥の中に棲んでいる。



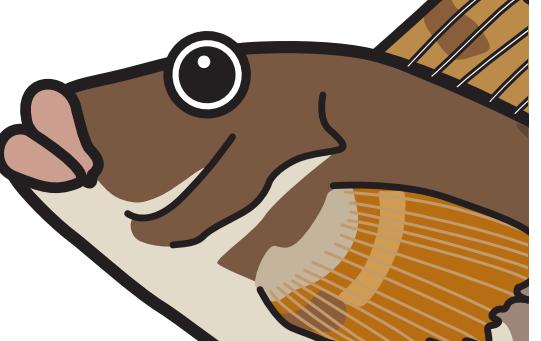
ヒラメ

口が大きく鋭い歯で小魚などを丸のみにする。大きさは90cm、10kgくらいになる。最高級の白身魚で別名オオクチとも呼ばれる。

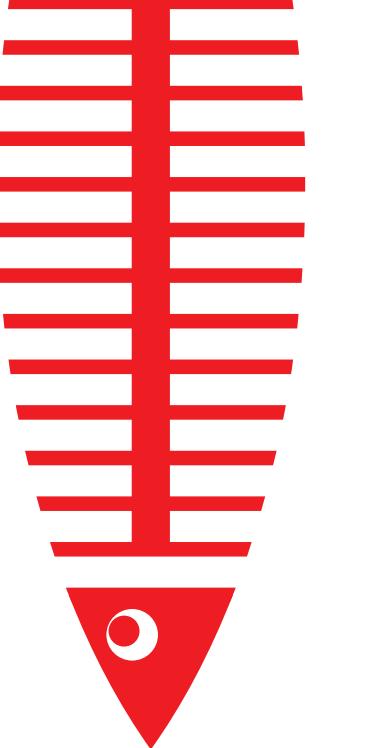


アイナメ

大きさはおよそ30cmから40cmになり、白身の高級魚。堤防や波消しブロック、岩礁帯などに生息している。

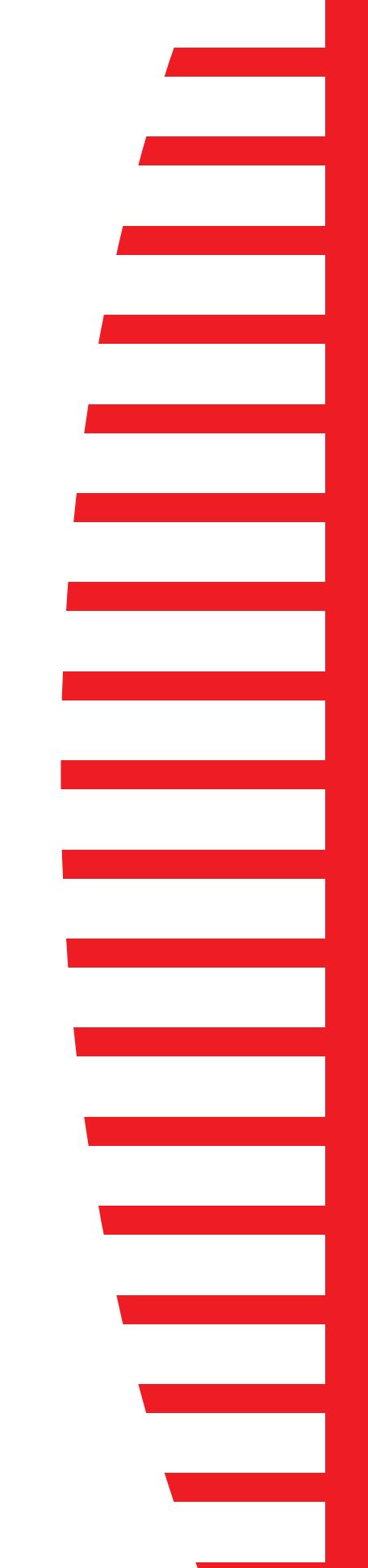


下松市
栽培漁業
センター



(公財)下松市水産振興基金協会
下松市栽培漁業センター

〒744-0001 山口県下松市大字笠戸島456番地8
TEL.0833-52-1333 FAX.0833-52-1335
E-mail:ksai@joy.ocn.ne.jp



マコガレイ

浅い海底に棲み、ゴカイやエビ・カニなどを食べる。大きさは45cmぐらいで12~1月に産卵する。冬場は特に釣魚として人気がある。



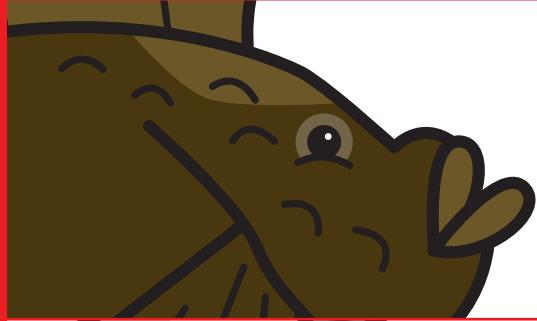
クルマエビ

アフリカ東海岸まで分布し、砂泥底に棲む。大きさは約25cmで、日本では昔から寿司・天ぷらの材料として人気がある。盛んに養殖が行われており、丸まつた時の姿が車輪に似ているので車エビとも呼ばれている。



カサゴ

大きいものは30cmぐらいになり、棲む場所によっていろいろな色（保護色）のものがいる。岩場や藻場に棲み卵ではなく仔魚を産む。



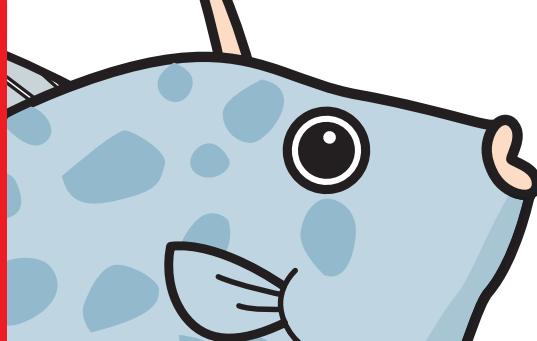
オニオコゼ

大きさは30cmぐらいで背びれのトゲに毒がある。海底に潜み、底に棲む小動物を丸のみする。体に似合わずとてもおいしい高級魚。



アワビ

一枚からなる巻き貝で、大きさは5~6年で約20cmぐらいになる。食べる物によって貝の色が違ってくる。旬は夏。



ウマヅラハギ

大きさはおよそ25cmで、馬のような顔をしている。旬のウマヅラハギの肝は絶品として知られている。

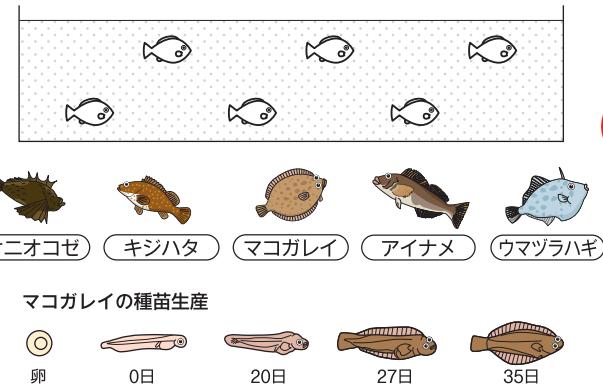
くだまつの栽培漁業は、

下松市栽培漁業センターは昭和58年に開設しました。くだまつは、笠戸湾という天然の良港に恵まれています。この豊かな水産資源を守り育てていくため、当センターでは、魚介類を育て、放流する活動を積極的に行ってています。



process 1 種苗生産

親から産まれた卵をかえし、プランクトンや人工の餌を与え、育てます。自然の海では死んでしまうことが多い時期に、室内の水槽などで飼育管理します。



笠戸大橋



マコガレイの赤ちゃん



外観



オニオコゼの赤ちゃん



動物職員



キジハタの赤ちゃん

地産地食に貢献しています。

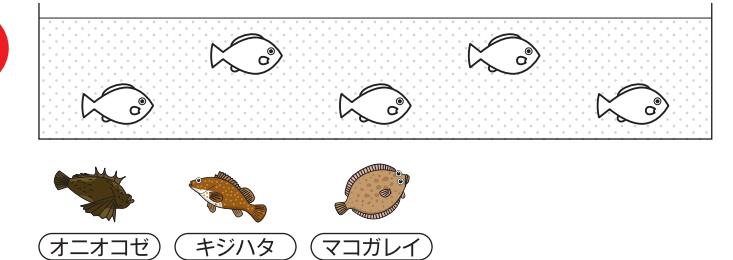
下松市栽培漁業センターで育てた魚介類の多くは、くだまつの人々に還元されています。中でも養殖した笠戸ひらめは、およそ90%がくだまつで食されており、地産地食こそが当センター最大の特長と言えます。

現在、県内最多の12魚種を育成しています。

- (オニオコゼ)
- (キジハタ)
- (マコガレイ)
- (ヒラメ)
- (トラフグ)
- (クルマエビ)
- (ガザミ)
- (アカガイ)
- (アワビ)
- (カサゴ)
- (アイナメ)
- (ウマヅラハギ)

process 2 中間育成

人の手で大切に育てられた種苗は、自分で餌をとる能力や、外敵から襲われても逃げたり隠れたりする能力が不足しているため、ある程度大きくなるまで育てます。



●以下の7種類は、県栽培漁業公社から稚魚を購入して育成しています。

- (ヒラメ)
- (トラフグ)
- (クルマエビ)
- (ガザミ)
- (アカガイ)
- (アワビ)
- (カサゴ)
- (アイナメ)
- (ウマヅラハギ)



第3生物飼育棟



動物職員



ガザミの赤ちゃん



タッチングプール

地域に貢献しています。

下松市栽培漁業センターについて、下松市の皆様にもっと知って親しんでもらえるよう、様々な活動を行っております。

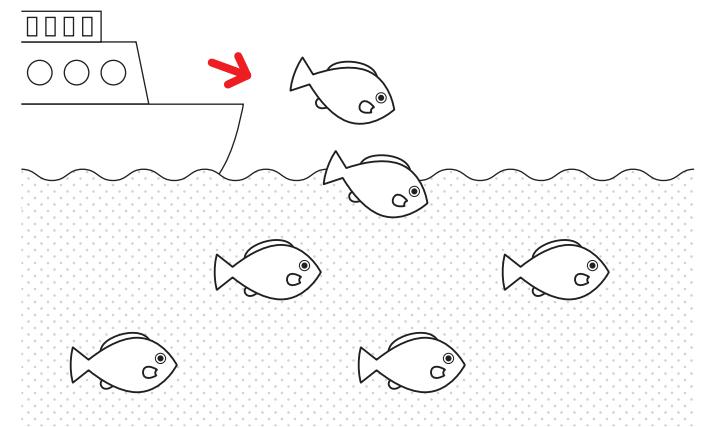
笠戸ひらめのさばき方教室

もっと笠戸ひらめに親しんでもらおうと、笠戸ひらめのさばき方教室を開催しています。



process 3 種苗放流

中間育成で大きくなった種苗は、育ちやすい環境の海に放します。



- (オニオコゼ)
- (キジハタ)
- (マコガレイ)
- (ヒラメ)
- (トラフグ)
- (クルマエビ)
- (ガザミ)
- (アカガイ)
- (アワビ)
- (カサゴ)
- (アイナメ)
- (ウマヅラハギ)



下松市栽培漁業センター

スタッフ

出前講座

飼育している稚魚を小・中学校へ持参し、魚に触れながら栽培漁業について学びます。



施設見学

施設見学を行っています。ヒラメの餌やり体験などもできます。



養殖

ヒラメ

センターがヒラメの養殖を行わなければ、下松市の代表的な観光資源である「笠戸ひらめ」が絶えてしまいます。センターでは、これからも下松市の観光資源を守るため、ヒラメの養殖を継続します。



トラフグ

地域の養殖事業者に対して技術支援ができるよう試験養殖を行っています。現在、これまでより2ヶ月ほど早く出荷できる育成法を確立し、漁業者に伝えています。「笠戸ひらめ」に続く名物にしていきたいと考えています。

